

ラオスでの活動開始から30年。  
 活動の継続に加え、緊急下への対応が加速

本  
 の  
 力  
 を、  
 生  
 き  
 る  
 力  
 に。



kuv yuav muab nyaj  
 hab kub ma meb. Mas meb  
 yuav ua zoo neej.



Meb yuav tsi pluag  
 ib zag ntxiv le Lawm.

Tes tug fuab tais txawm  
 muab nyaj hab kub rua tug  
 yawm txav tang ob tug ob  
 nam txiv.



ob tug txhaj le ua neej  
 luag ntxhi moog le Lawm.  
 Quas yawg tau nom ua.  
 Yog quas puj ntse.

ラオス・モン族の子どもたちが  
 手づくりした「刺繍絵本」

タイ・ラオス国境にあった難民  
 キャンプの図書館に通っていた  
 子どもたちがつくった布の絵本  
 の一部です。モン族の人々は刺  
 繍がとても得意で女の子だと5  
 歳くらいから刺し始めます。モン  
 族は元々文字を持っていなかった  
 ので、当時モン語で読める本  
 がありませんでしたが、刺繍絵  
 本は民話などを中心に数多くつ  
 くられました。

## ラオスでの活動開始から30年。

50の民族が暮らす多民族国家ラオスで、  
シャンティが活動を開始したのは1992年。  
教育環境が改善される一方、  
都市部と農村部の教育格差は広がっています。  
シャンティは今後も  
ラオスでの活動に邁進いたします。

ラオス政府から友好勲章を授与いただきました。

活動30年に際し、2022年はこれまでの活動を振り返るオンラインイベントの開催や、広報誌『SHANTI』で特集を組みました。また、1996年に開設した「子どもの家」とその後の子ども文化センターへの活動が、ラオスの伝統文化の保存と継承に貢献した実績を評価され、ラオス政府から友好勲章を授与いただきました。



### ごあいさつ

日ごろシャンティの活動を温かく見守ってくださる皆さまに、改めて深甚なる感謝を申し上げます。

1981年の団体設立から41年間、変わらずにあるのは活動理念である「共に生き、共に学ぶ」ということです。シャンティが教育文化支援活動を行っている地域は、貧困や飢餓、人権侵害など、さまざまな問題を抱えていますが、衣食住が足りただけでは解決とは考えません。そこから何を心の支えとして歩んでいけるかを思う時、その地の伝統文化に根ざした教育の重要性が浮上してくるのです。シャンティはそうしたことを共に学ぶ中で、明日への一歩を踏み出していけるような支援を目指しています。

シャンティの取り組みは一朝一夕で効果が表れるものではありません。しかし、団体設立当初のころに教育支援のチャンスを得た子どもが、今は立派な大人となって、同じ困難を抱えた子どもたちに、教育支援の手を差し伸べる姿が見られるようになりました。こうした心の輪が広がってこそ、我々が目指してきた平和な市民社会構築に寄与することだと考えています。

目まぐるしく変化する世界情勢の中で、シャンティの活動は今後、益々必要とされてくるでしょう。遠回りかも知れませんが、着実に一歩一歩進んでまいります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

会長 若林恭英



### 2022年のトピックス

#### 英語版ウェブサイトをリニューアル

2021年に行った公式ウェブサイト（日本語版）のリニューアルにつき、2022年は英語版ウェブサイトを刷新しました。

今後も国内外に向けたより良い情報発信に努め、皆さまと手を取りあって進んでまいりたいと思います。

[英語版ウェブサイトURL]

<https://sva.or.jp/english/>

日本語版ウェブサイトの画面

右上の言語切り替えボタンからもご覧いただけます。



#### ネパール政府復興庁より感謝状を授与

シャンティは2015年のネパール大地震後に復興支援事業を開始し、2017年にネパール事務所を開設しました。その後、地震後に組織されたネパール政府復興庁と協力協定書を締結し、2017年から2021年にかけて「学校防災能力強化事業」を実施しました。ネパールにおけるこれらの貢献が認められ、ネパール政府復興庁より震災復興への貢献に対する感謝状をいただきました。





2022年2月に始まった、ロシアによるウクライナ侵攻。

長年平和な社会を目指して活動してきたシャンティにとって決して見過ごすことのできない状況にどのように対応するか決定を下すまでの時間は、多くはかかりませんでした。

増える緊急人道支援への対応、各活動地での継続的な活動はここ数年取り組む組織基盤の強化が大きな支えとなりました。



事務局長 山本 英里

新たに始まってしまった戦争とどう向き合うか。増える緊急人道支援への対応は課題

少しずつ新型コロナウイルス感染拡大の状況も落ち着き、ようやくできることを進めていける段階になったと思った矢先、2022年2月にロシアによるウクライナ侵攻が始まりました。長年平和な社会を目指してきた我々としては、この時代に新しい戦争が始まってしまったという決して見過ごすことのできない状況に、どのように動くべきかすぐに議論を始めました。

我々が赴かなくても支援が届くのでは、今活動している地域に集中すべきなのでは、という考えも確かにありましたが、これまでも現場を自分たちの目で見て、支援が必要かどうか判断してきた原点に戻り、4月には第一次調査団をポーランドとウクライナに派遣しました。調査の結果、周辺国に非常に多くの避難民が生まれていること、支援が行き届いているとは言えず、子どもたちへの影響も大きいことがわかり、我々がやってきたことをできる限り展開することを決め、支援を開始しました。改めて戦争の悲惨さを国際社会全体で考えていく時が来ていると強く感じています。

ウクライナとポーランド以外にも、コロナ禍以降緊急人道支援の出動数が増えています。現在出動している活動地はアフガニスタン・ミャンマー・ウクライナ・ポーランド・パキスタンの5カ国6地域、これに追加して国内の災害に対応するタイミン

グもあり、この出動数の多さはシャンティとしてひとつの挑戦です。特にウクライナとポーランドの支援は、これまで活動してきた地域とは文化が異なり、時差も大きいことなどから円滑な事業運営を進める上で課題は多くありますが、引き続き対応を広げていければと思っています。



モルドバ・キシナウの避難センターでのレクリエーションの様子

ラオスでの活動開始から30年。組織基盤の強化が大きな支えに

2022年はラオスでの活動が30年目を迎えました。活動開始当初フランスの植民地化や内戦の影響もあり、絵本や文学作品の出版はほとんど行われていなかった中で着手した絵本出版から始まり、多民族国家で未だ多くの教育課題を抱えるラオスで長年教育文化支援活動に取り組んできました。教材を作成するための「謄写版」の製作・普及から開始した教材開発、適切

で安全な学習環境としての学校建設、複式学級の支援などその内容は多岐にわたります。成果の一部にはなりますが、移動図書館活動に参加した人はのべ371,245人、謄写版は2020年までにラオス全土の小学校8,120校に配布し、これまでに建設した学校は74校にものぼります。長期的に関わってきたことで、多くの子どもたちに教育の機会を届けることができました。

このように活動を継続するためには、組織の基盤作りが重要です。そこで大きな支えとなったのが、2019年に策定し、組織基盤強化を計画の柱とする中期事業計画でした。どのような状況でも、この中期事業計画を軸に判断しながら活動に取り組んだことで、目指す方向に向かって確実に歩みを進められました。シャンティの強みを活かして、弱みは改善する。このことを引き続き職員一丸となって進めていければと思います。

2022年は国際社会の先行きに不安を覚え、新たな戦争が始まるのを止められなかった後悔も残る1年でした。この先どのような目標を掲げて前に進んでいくべきか考えさせられる一方、シャンティが国際社会で担う役割の必要性も感じました。100年先のことも考えながら、目の前の人と向き合い、その人が持つ生きる権利を守るという、これまでもこれからも変わらない支援を届けるためにしっかり取り組んでいきたいと思っています。

移動図書館活動



ラオス事務所30周年オンラインイベント「教育の改善に向き合った30年」

中期事業計画(2019-2024)の中間評価を行いました

シャンティは2019年に、2024年までに取り組む内容をまとめた6カ年の中期事業計画を策定しました。計画策定から3年が経過した2022年、評価方針に沿って中期事業計画の進捗状況を確認する中間評価を行いました。全海外事務所および東京事務所の役・職員が参加し、計画に対して実績を洗い出すとともに、定性・定量評価を行い、3年の成果と今後取り組むべき課題を確認しました。

2019年の計画策定時と比べ、置かれている環境は大きく変化しました。世界を覆ったコロナ禍のみならず、ミャンマーやアフガニスタンの政変、ロシアによるウクライナ侵攻など、予想していなかった状況が次々と起こった3年間でした。しかし、この緊急下においてもシャンティは対応を広げることができ、その支えとなったのは中期事業計画で進めてきた組織基盤の強化だったと言えます。

残り3年のみならず、この先の活動に向けても、今回の中間評価によって得られた提言と教訓を活かし、残りの期間で中期事業計画の達成に努めてまいります。

中期事業計画と中間評価

1. 専門性を高め、新たな海外事業を展開します

- ・ シャンティが継続して取り組んできた絵本やおはなしの読み聞かせを軸とした読書推進、ライフスキル教育を強化し、新たな海外事業を展開します。
・ 図書館活動のノウハウのパッケージ化、ノンフォーマル教育分野での活用
・ 国内外の緊急人道支援における図書館活動
・ アジア以外での緊急人道支援、新しい国・地域における活動の展開

- ※ 2020年:新型コロナウイルス感染拡大に伴い、活動国と日本での緊急支援事業を実施しました。
※ 2021年:読書推進、ライフスキルを含む子どもの教育の専門性を高めるため、教育事業のリソースの体系化、ノンフォーマル教育に寄与する図書館活動のマニュアル作成、教育事業に関わる職員向け勉強会を行いました。
※ 2022年:ロシアによるウクライナ侵攻を受け、ウクライナとポーランドにおける緊急支援事業を開始しました。また、前年に続き、教育事業リソースの体系化や勉強会を開催しました。

2. 日本国内での新規事業を推進します

- ・ シャンティが培ってきたアジアでの経験と学び、つながりを活かし、日本における子どもの貧困、外国ルーツの子どもたちが抱える課題を解決するため、日本国内での事業を推進します。

- ※ 2020年:国内事業として、外国ルーツの子どもたちを対象とした居場所づくり事業を開始しました。コロナ禍ではオンラインで、子ども同士が自分のペースで交流できる場を設けています。
※ 2021年:外国ルーツのこどもたちらの家族を含めた東京都豊島区で在留外国人を対象に、継続するコロナ禍における包括的生活安定支援事業を開始しました。
※ 2022年:日本国内の宗教施設を対象に3つの柱(防災減災を考える宗教施設の交流と研修・防災減災モデル宗教施設の能力強化・横断的な宗教施設の防災減災ネットワーク形成)を軸とした防災減災推進事業を開始しました。

3. 政策提言、パートナーシップを強化します

- ・ 子どもの権利条約第28条・29条「教育の目的」達成に寄与することを目指し、さまざまなステークホルダーとのパートナーシップを強化します。
・ 読書推進を行う企業、団体との連携強化
・ 専門家とともに事業や活動成果の検証、効果測定、調査研究の結果公表
・ 活動地における教育政策の改善に寄与する提言書の作成
・ 市民が気軽に参加できる「絵本を届ける運動」ワークショップの推進、市民とのコミュニケーション強化

- ※ 2022年:ネパールにおいて、教育科学技術省と共同主催で、公共・コミュニティ図書館全国会議を開催し、図書館振興のための法整備や予算措置などの10項目を掲げた「カトマンズ宣言」が採択されました。

4. 組織の国際化を目指します

- ・ 日本生まれのNGOとしてさらに事業を推進していくために、人材育成や多様な働き方の導入など、組織基盤を強化します。
・ 組織基盤の強化
・ 職員の能力開発、次世代リーダーの育成
・ 国を越えた国際職員の配置
・ 多様な働き方に柔軟に対応できる制度の整備
・ 国内外での認知向上、多様な財源の確保

- ※ 2019年:次世代リーダー育成のため、各事務所から職員が来日し、東京事務所の職員とともに研修を行いました。
※ 2021年:団体設立40周年を契機に広報資料やウェブサイトのリニューアルを行いました。組織基盤強化では団体規程の刷新、運営現地化方針の見直しを行いました。
※ 2022年:多様な財源の確保に向けて、新たな手法を導入するなど継続的な施策を開始しました。
※ 2022年:英語版ウェブサイトのリニューアルを行いました。
※ 2022年:改訂された運営現地化方針に沿って、海外事務所における人材育成計画を策定しました。
※ 2022年:海外を含む全事務所職員を対象としてセーフガーディングや教育事業に関わるオンライン研修会を実施しました。
※ 2022年:事務業務に関わる新たなシステムを積極的に導入し、マニュアル化するなどの対応を進めました。

シャンティは40年以上、アジアの8つの地域で活動を行ってきました。国や地域の社会状況により必要な支援は異なります。専門性を持った職員が活動地に滞在し、継続的な支援を行っています。現地の人々と共に、学びの文化を育てています。

## これまでの支援活動実績 (2022年末まで)

### 実績1 学ぶための本や活動

	2022年度	通算
絵本・紙芝居出版	8タイトル	655タイトル
届けた絵本	18,520冊	381,237冊
図書館利用者	283,960人	1,648万人



### 実績3 安心して学べる場所

	2022年度	通算
学校建設	13校	442校
図書館・図書室設置	37館・室	1,055館・室



### 実績2 学びを届ける人

	2022年度	通算
研修参加者	495回 / 11,512人	1,284回 / 55,204人



### 実績4 緊急人道支援

	2022年度	通算
緊急救援出動回数	11回 ・海外9回 ・国内2回	93回 ・海外61回 ・国内32回

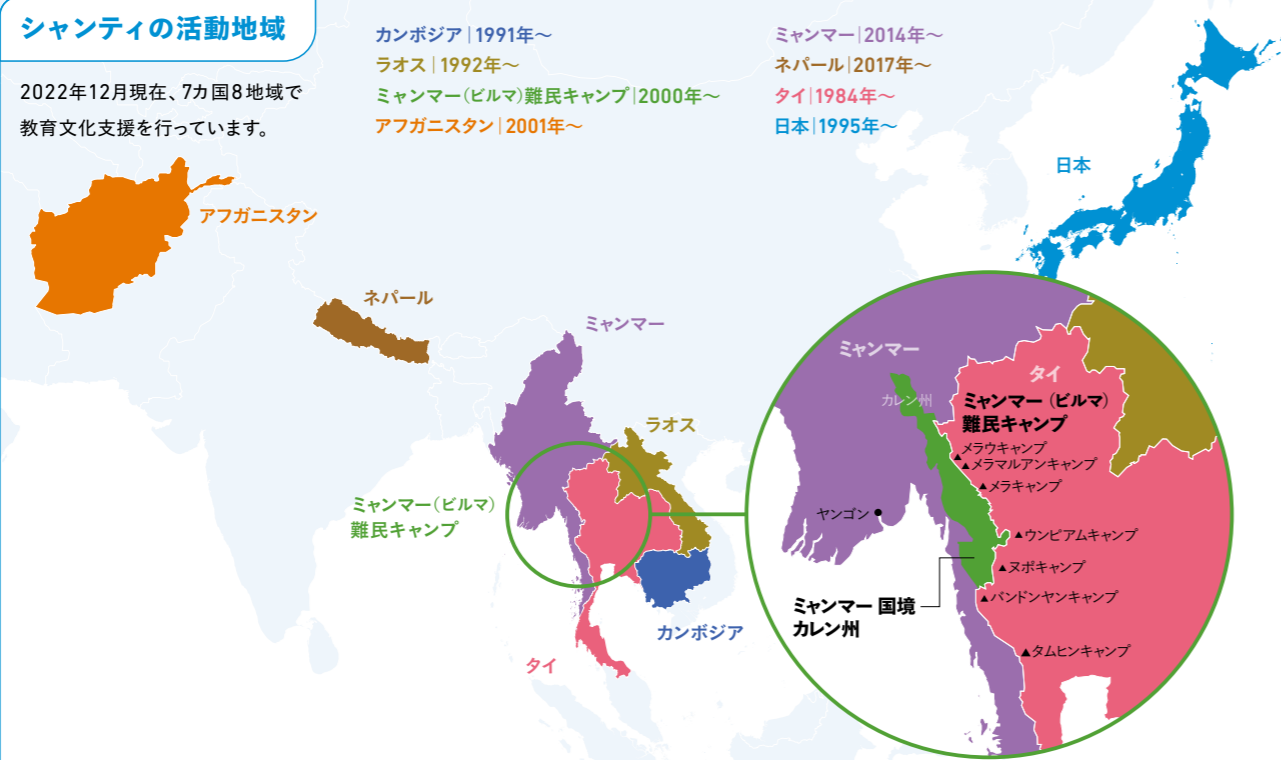


## シャンティの活動地域

2022年12月現在、7カ国8地域で教育文化支援を行っています。

カンボジア | 1991年～  
ラオス | 1992年～  
ミャンマー(ビルマ)難民キャンプ | 2000年～  
アフガニスタン | 2001年～

ミャンマー | 2014年～  
ネパール | 2017年～  
タイ | 1984年～  
日本 | 1995年～



# Thailand

## タイ

### スラム、移民・少数民族居住地域での教育支援活動

タイでは新型コロナウイルス感染者数が3月をピークに減少し始め、入国制限などの規制を撤廃し、「ウイズコロナ」措置に舵を切りました。学校でも対面の授業が再開されましたが、約2年間の学習の損失を取り戻す必要があります。2022年は、368人の学生に奨学金を授与しました。また、移動図書館活動は、感染予防を徹底しながらも、人数制限のない活動ができるようになり、年間で4,467人の子どもたちが参加しました。



### 実績

図書館活動参加者:  
4,467人  
奨学金支給者:  
368人



### 事業

#### 1. 教育の機会改善事業

中高生合計348人(バンコク34人、パヤオ県169人、ターク県145人)と大学生20人の合計368人に奨学金を授与しました。奨学金事業は、奨学生の選定のため毎年2月に対象3地域にて家庭訪問を実施していますが、コロナ禍でスケジュールを変更し、3月に行いました。前期奨学金授与式を6-7月にかけて、後期奨学金授与式を11月にバンコク、パヤオ県、ターク県の3カ所で開催しました。

#### 2. 移動図書館を通じた読書推進活動

2022年上期移動図書館活動は、新型コロナウイルス感染者数が急増したため、タイ政府の対応措置に従い、人数制限を行って実施しました。バンコクのスラム地域、バンコク郊外のミャンマー人が多く住むサムットサーコーン県とサムットプラカーン県を対象として、計58回の活動を行い、954人の子どもたちが参加しました。下半期には新型コロナウイルス感染状況は落ち着き、移動制限も撤廃されました。そのため、感染予防を徹底しながら、人数制限のない通

常通りの移動図書館活動の実施が可能になりました。下半期は、計51回の活動を行い、参加者は3,513人となりました。また、バンコク地区では、絵本読み聞かせの手法とレクリエーション活動の実践をテーマに教員研修を行い、計29人の教員が参加しました。



シーカー・アジア財団の職員  
\*タイでの活動は、シャンティの元タイ事務所で、現在は現地法人のシーカー・アジア財団(SAF)が行っています。シャンティとはパートナーとして事業運営における連携を行っています。

### 事務局長メッセージ



シーカー・アジア財団  
事務局長  
ナリラット・  
ターンジャンルンバムルンスック

タイは世界一貧富の格差がある国です。2022年12月に発表されたタイ国家経済社会開発委員会の報告書によると、440万人が貧困ライン以下で生活しており、教育、健康な生活、生活の質、経済的安定で測る多次元貧困指数では、総人口の1割以上にあたる810万人が貧困状態です。

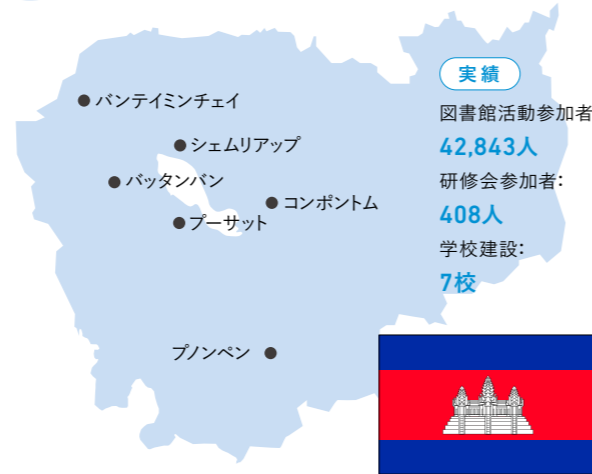
私たちは、子どもや若者への教育がタイ社会の持続可能な発展につながると信じています。教育を受けることで、さまざまな知識や技能、態度を身に付け、生活や社会の課題に立ち向かう力となります。シーカー・アジア財団では、奨学金事業、移動図書館活動、コミュニティ図書館活動、学生寮支援等を継続し、無国籍、少数民族、移民の子どもたちを含めた困難な状況にある子どもたちに対して、教育の機会を保障し、教育の質を高めていきたいと考えています。

# Cambodia

## カンボジア

### 失われた学習機会を取り戻すために

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、  
 昨年はずべての学校が長期にわたって閉鎖されましたが、  
 2022年1月からは全面的に再開しています。  
 学校閉鎖による影響は大きく、学習達成度、留年率、退学率は、  
 コロナ前に比べていずれも悪化しており、  
 失われた学習機会を取り戻すための取り組みが  
 必要となっています。



#### 事業

##### 1. 幼児教育の質の改善

- ・教育省や教育関係者で結成されたタスクチームと協働し、教員用ガイドブックを作成しました。
- ・オンラインツールを活用し、日本の幼稚園教諭・保育士による技術指導を行いました。
- ・ガイドブックの内容を伝える現職教員研修を実施しました。
- ・タスクチームを対象とした訪日研修を実施しました。
- ・対象園に通う幼児の家庭に絵本、おもちゃ、読書推進リーフレットを入れたセットを配布しました。

##### 2. 小学校建設を通じた学習環境改善事業

- ・バタンバン州の3校に、図書館機能を併設した小学校校舎、トイレ、手洗い場を建設しました。
- ・支援校にて図書室運営研修と施設の維持管理研修を行いました。

##### 3. コミュニティ学習センター運営支援

- ・一部のコミュニティ学習センター（CLC）に、ICT機器を設置しました。
- ・CLCの図書館に、生涯学習を推進するための書籍を配布しました。
- ・学習環境改善事業と協働で移動図書館活動を実施し、計366人が参加しました。

##### 4. 学校建設

- ・プーサット州の4校に、3教室の新校舎とトイレを建設しました。
- ・支援校にて校舎やトイレの維持管理研修を実施しました。



カンボジア事務所職員

#### 所長メッセージ



カンボジア事務所  
 所長  
 加瀬 貴

2022年、学校の全面的な再開により児童はコロナ禍以前と同様の学校教育を受けることができるようになりました。しかし、教育省の調査によると、長期間の学校閉鎖で児童の学力が大きく低下したため、学習損失を取り戻すための取り組み強化が求められています。

また、約72万世帯300万人が貧困層で、コロナ禍、そして物価高の影響により、さらなる貧困層の増加や人々の生活に大きな支障が出ることが危惧されています。

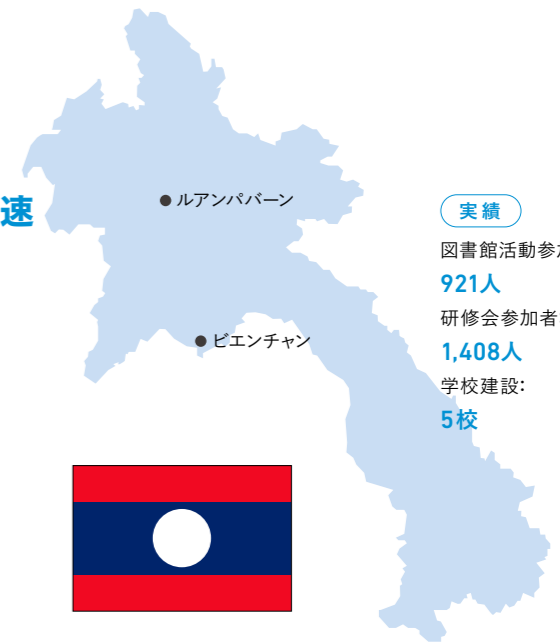
私たちは対面形式およびオンライン形式を組み合わせ、学校建設、コミュニティ学習センター事業、幼児教育の質の改善事業を実施し、カンボジアの教育改善に努めてきました。子どもたちが失った学びは甚大であり、その影響は農村部や僻地に住む子どもたちにはもっとも深刻です。「誰一人として取り残さない」という誓いのもと、困難な状況にある人々への支援を続けていきます。

# Laos

## ラオス

### 設立30周年を迎え、農村部でコロナ後の支援を加速

ラオス事務所の対象地では、2022年1月以降に学校が再開しました。5月以降には、移動の制限がほぼなくなったため、事業対象地での活動を徐々に再開しました。  
 ラオス事務所は、2022年に設立30周年を迎え、8月にはこれまでの貢献が評価されラオス政府より友好勲章を授与されました。現地ではラオス人職員が中心となって、日本人職員と協力しながら、さらに活動を展開していく予定です。



#### 事業

##### 1. 学校建設

- ・2020年に建設した小学校2校の完工1年後検査を行いました、また2021年の建設校3校の施工80%検査および100%検査を行いました。
- ・2020年建設校2校および2021年度建設校3校で衛生研修を実施しました。
- ・2022年に建設予定の3校の現地調査を行い、行政手続きと建設準備を行いました。

##### 2. 移動図書館を通じた読書推進活動

- ・紙芝居1タイトル150冊の再版を行いました。
- ・3月から5月および9月から10月にかけてルアンパバーン県の10校において移動図書館活動を実施しました。745人の児童と36人の教員が参加し、計908冊の図書が貸し出されました。
- ・読書推進および読み聞かせに関する内部研修を実施しました。

##### 3. 複式学級運営改善事業

- ・1月に教育スポーツ省より「複式学級運営の手引き」が正式に承認されました。
- ・3月に北部の教員養成校3校に対する複式学級運営に関する研修を実施し、90人が参加しました。また、5月に他地域の教員養成校5校に対する研修を実施し、30人が参加しました。
- ・6月にラオス政府による評価を受けた後、8月に4年間にわたる事業を完了しました。



ラオス事務所職員

#### 所長メッセージ



ラオス事務所  
 所長  
 谷島 緑

2022年にラオス事務所は設立30周年を迎えました。これまでのあゆみを振り返ると、ラオス社会の変化に伴い、格差の拡大や、課題の変化を感じます。活動地においては、子どもたちの学習環境の改善や、保護者や地域住民が学校の教育や運営に参画するなどといったポジティブな変化も見られる一方で、山岳へ地に暮らす子どもたちの学習課題は深刻化しつつあります。ラオス人職員がより主体的に活動を進めながら、ポストコロナの状況をふまえ、さらに現地のニーズに根ざした効果的な支援を目指します。より一層、現地の人々に寄り添いながら、少数民族をはじめとするラオスの子どもたちにより広く教育の機会を届ける活動を続けてまいります。

# Afghanistan

## アフガニスタン

### 危機下にある学びの場を守り続ける

2021年に発生した政変以来、アフガニスタンの情勢は混迷を極めています。多くの人々が国内外での退避の末、厳しい暮らしを余儀なくされています。女子の中等・高等教育や女性NGO職員の就労が禁止となり、教育・就労の場から女性たちが閉ざされています。こうした状況の中でも、学びの権利を奪われた子どもたちの未来への希望の灯を絶やさぬよう、職員が一丸となって事業を継続し、支援を届けました。

#### 実績

図書館活動参加者：47,989人  
研修会参加者：524人  
図書館・図書室設置：1館



#### 事業

##### 1. 子どものための

##### 図書館普及にむけた基盤整備事業

- ジャララバード市のモデル学校図書館が竣工し、ラグマン市の小学校へのモデル学校図書館建設も着工しました。カブール市のモデル学校図書館は延べ2,625人の生徒が利用し、貸出図書数は延べ697冊でした。ジャララバード市の学校図書館は延べ5,721人の生徒が利用し、貸出図書数は1,747冊でした。
- 学校図書館ガイドブックが完成し、対象校の図書館員、小学校教員、校長向けの研修を実施しました。
- ジャララバード市とラグマン市の学校計25校で、移動図書館を実施し、延べ132回に及び、延べ18,959人の生徒が参加、貸出図書数は11,064冊でした。

##### 2. 子ども図書館の運営

ジャララバード市の子ども図書館は246日間の開館中、延べ39,643人(うち17%は国内避難民や孤児、障がい児など)の子どもが利用しました。読書推進のためのイベントが9回開催され、参

加者は延べ1,712人でした。政変以降、特に女児の子どもたちにとって安心して過ごせる拠り所になっています。

##### 3. 絵本・紙芝居出版

絵本2タイトルと紙芝居1タイトルのプロットを、専門家のアドバイスに基づいて改訂しました。

##### 4. クナール県における子どもの教育へのアクセス向上事業

- コミュニティベースの教室をクナール県の10郡に500ヶ所設置し、15,000人(うち63.43%は女子)の子どもが就学が確保されました。
- 学習キットを7,500人の児童に配布したほか、500人の教員を対象に教材配布と教授法、衛生・コロナ感染予防の研修を行いました。
- 学校運営委員会を結成、長老や宗教のリーダーを招いて教育の重要性について話し合いました。
- クナール県10郡にてバック・トゥ・スクールキャンペーンを実施しました。

#### 所長メッセージ

事務局長 兼  
アフガニスタン事務所 所長  
山本 英里



2021年8月の政変以降、人道危機が続いているアフガニスタンでは、経済や災害、干ばつなどの影響で深刻な食料危機となっています。中等以上の女子教育は禁止され、女性の就労が制限されるなど、厳しい状況が続いています。国外への人材流出が続く中でも、現地にとどまり、子どもたちへの教育を提供すべく奔走している人々と共に、職員及び関係者の安全確保を第一としながら、教育支援、緊急人道支援に取り組んできました。初めての試みとして、地域住民と連携して教育の機会を拡大するコミュニティベースの教育の普及に携わりました。

2023年は、2003年にアフガニスタンに事務所を設立してからちょうど20年を迎えます。私たちの活動の継続が、教育の機会を絶たれた子どもたちの希望になっています。多様なアクターと連携を取りながら一人でも多くの子どもたちの教育の機会が守られるよう活動を続けていきます。

# Myanmar

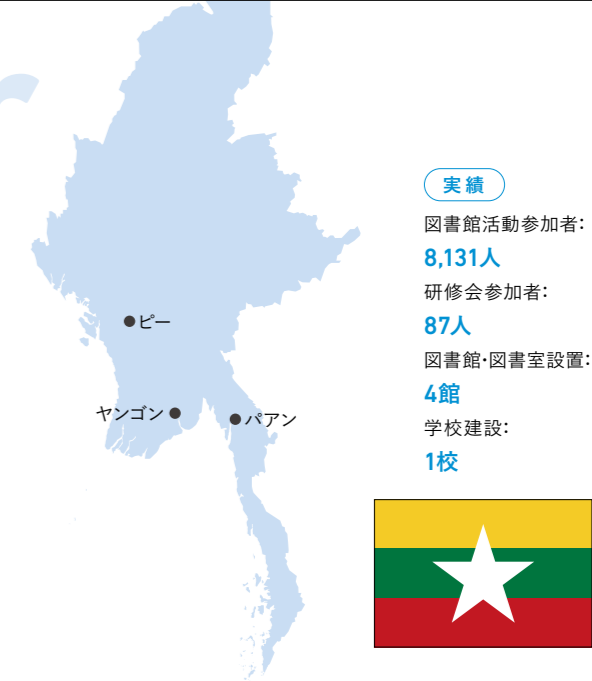
## ミャンマー

### 学びたいと願う子どもたちに安心して学べる環境を

2021年に発生した軍事クーデターは依然として教育現場にも影響を与えています。新学年が6月に開始され、560万人の児童・生徒が就学登録を行いました。その数はクーデター以前の登録者数には及ばず、完全な復学にはまだ時間がかかることが予想されます。シャンティでは学びたいと願い復学した子どもたちが安心して学べる校舎と、コロナ禍以降失った学習を補えるよう学校図書館を建設しました。

#### 実績

図書館活動参加者：  
8,131人  
研修会参加者：  
87人  
図書館・図書室設置：  
4館  
学校建設：  
1校



#### 事業

##### 1. 校舎・学校図書館建設

- 僧院学校1校の校舎、4校の学校図書館を建設しました。10月から11月にかけて竣工式と開館式を行い、児童・生徒、学校長、教員、地域住民らが参加しました。式では児童・生徒によるダンスの披露や教員らによる絵本の読み聞かせが行われました。
- 建設された学校図書館にはヤンゴン、タイ、日本からの絵本や紙芝居を4校合計で3,263冊配架しました。
- 建物を持続的に利用することを目的とした施設維持管理研修や、学校図書館の運営や図書サービスの理解を深めるための学校図書館研修を各校で行いました。これらの研修は対面で行い、合計57人が参加しました。
- 建設した4校の学校図書館は累計5,926人の子どもたちに利用されました。
- 建設した学校図書館1校では近隣の学校2校へ図書貸出しサービスを行い、累計で2,205人の子どもたちが図書貸出しサービスを利用しました。



ミャンマー事務所職員

#### 所長メッセージ

ミャンマー事務所  
所長  
中原 亜紀



クーデターや長引くコロナ禍により多くの子どもたちが2年近くも学ぶ機会を失いました。国軍統治下の学校に子どもを通わせたくない、生活苦により労働に従事しなければならないなどの理由から学べない子どもたちが大勢います。

2022年は僧院学校を対象として教育支援を行いました。僧院学校では、貧困層の子ども、ストリートチルドレンや孤児など社会的に脆弱な立場の子どもたちに対し、無償で初等・中等教育機会を提供しています。クーデター以降、NGOの活動に対しさまざまな制限が課されていますが、出来る限りの支援を継続すべく、現地職員と話し合ってきました。校舎および学校図書館建設を支援した学校の子どもたちが、初めて絵本を手にして喜んでいる姿や新校舎での勉強に興奮している様子を見て、学びの機会は決して止めてはならないと思いを強くしました。

# Myanmar (Burma)

## ミャンマー（ビルマ）難民キャンプ

### コロナの感染が落ち着き、図書館を開館

新型コロナウイルスの感染状況が落ち着き、移動や集会の制限が緩和されたため、ほぼ通常通りにコミュニティ図書館を開館することができました。ミャンマー本国やタイ・ミャンマー国境の情勢は不安定な状況が続いており、難民キャンプに暮らす人々の精神的な不安は大きくなっています。

#### 実績

図書館活動参加者：  
**162,640人**  
研修会参加者：  
**421人**



#### 事業

### 1. コミュニティ図書館運営

- タイ国内の難民キャンプにおいて、コミュニティ図書館の運営を支援し、2022年の年間利用者は7キャンプ15館全体で延べ162,640人(子ども109,443人、成人53,197人)でした。
- 図書館15館に、大人用書籍10,200冊(新聞、雑誌、小説など)、子ども用の絵本4,592冊(カレン語、ビルマ語)、参考書1,690冊を配架しました。
- 絵本1タイトル2,000冊(カレン語、ビルマ語)を出版し、図書館に配架しました。
- キャンプ内の学校144校とキャンプ内で活動する36団体に、移動図書館を使って本を貸し出しました。
- アルコール消毒などの新型コロナウイルス感染予防物資や図書館の運営に必要な物資を配布しました。
- 図書館の掲示板やパソコンを通して、ニュースや図書館に関する情報などを図書館の利用者に向けて提供しました。また、新しいパソコンを各キャンプに1台ずつ設置しました。
- 会議とモニタリングを実施し、計画や活動内容、課題を共有し、サービスの向上に努めました。

また、読み聞かせのスキルやレクリエーションなどを共有し、図書館活動の充実を目指しました。



ミャンマー（ビルマ）難民事業事務所職員

#### 副所長メッセージ

ミャンマー（ビルマ）難民事業事務所  
副所長  
ジラポーン・ラウィルン(セイラー)



タイ・ミャンマー国境の難民キャンプには、約91,000人が暮らしています。ミャンマーの政情不安やミャンマー政府と少数民族武装組織との停戦合意が破棄されたことにより、難民の人々の精神的な不安はさらに大きくなっています。

2022年は、コロナによる難民キャンプのロックダウンが解除され、私たちも難民キャンプに入り、本や物資の配布、会議やモニタリングを実施し、図書館の運営をサポートしました。また、タイ・ミャンマー国境の情勢が不安定な状況が続いているため、脆弱な人々へ食料などを配布しました。

現在の課題は図書館の修繕です。図書館は簡易な造りのため、年々老朽化しており、大規模な修繕が必要になっています。

私たちはタイ・ミャンマー国境で支援を必要としている人々への支援、特に子どもたちへ読書の機会を提供する支援に、引き続き取り組んでまいります。

# Nepal

## ネパール

### コロナ禍を乗り越えた先に見えてきた成果

5月に地方政府選挙、11月に国・地方議会議員選挙が実施されました。新型コロナウイルスの流行は落ち着き、平常時に戻りつつあります。2021年のコロナ禍による休校の影響を受け、新学期は1カ月遅れて開始しましたが、学校は通常通り開校しています。3つの事業も3年目を迎え、これまでの活動の成果が見えてきました。事業の完了に向け、モニタリングを強化し、フォローアップや調整を行っています。

#### 実績

絵本・紙芝居出版：  
**5タイトル 4,240冊**  
研修会参加者：  
**10,029人**  
図書館・図書室設置：  
**3館**  
図書館利用者数：  
**11,002人**



#### 事業

### 1. コミュニティ図書館能力強化事業

3館のコミュニティ図書館の建設が完了し、家具や図書、資機材を設置しました。3館の図書館運営委員会への研修を実施しました。3館で祖父母から昔ばなしを聞き取って子どもたちが絵本をつくるワークショップを実施し、1タイトル1,000部ずつ絵本を出版しました。2021年に開館したゴダワリ図書館の2022年の利用者数は9,911人でした。ネパール教育科学技術省と共同で、公共・コミュニティ図書館全国調査結果を発表する全国会議を主催し、図書館や教育関係者など全国から156人が参加しました。

### 2. 先住民族地域における地域学習のカリキュラムの開発・普及事業

先住民族であるチェパンの人々が多く居住するマクワンプル郡ラクラン自治体で1年生～5年生の地域学習の教科書を改訂しました。改訂した1年生～5年生の教科書と2021年に作成した6年生～8年生の教科書を各学校に配布しました。地域学習の授業を担当する教員を対象に、これまでに実施した研修を振り返るリフレッシャー研修を実施し、合計115人が参加しました。

### 3. 国連世界食糧計画(WFP)と連携した「学校給食改善事業(栄養教育活動)」

ヌワコット郡の全434校を対象とする本事業で、支援対象校に通う児童の保護者を対象とした栄養・衛生啓発活動のオリエンテーションを実施し、8,535人が参加しました。栄養教育紙芝居2タイトルを出版しました。栄養教育に関するローカルラジオ番組を24エピソード放送しました。



ネパール事務所職員

#### 所長メッセージ

ネパール事務所  
所長  
萩原 宏子



ネパールでは「コミュニティ図書館能力強化事業」と「先住民族地域における地域学習のカリキュラムの開発・普及事業」が事業フェーズの最終年を迎えました。コミュニティ図書館事業では計4館の図書館が完成し、貸し出しなどの図書サービスや女性や若者のエンパワメント研修や起業研修など、地域の発展につながる活動が展開されています。6月の全国図書館会議では各自治体に1館の図書館設置を目指す「カトマンズ宣言」が採択されました。地域学習事業では、開発した地域学習の教科書が本格的に使用されるようになりました。

「学校給食改善事業(栄養教育活動)」では、紙芝居などを活用した栄養教育を児童のみならず保護者に対しても実施した結果、給食のための資金や労働力を地域で協力して提供していくという動きが生まれています。2023年も引き続き、地域に根差した事業を実施していきます。

### 在留外国人支援と防災減災活動をさらに推進

コロナ禍が長引く中、在留外国人の置かれている状況は益々深刻です。2020年に始まった外国ルーツの子どもの居場所づくり、そして、その親を含む外国人世帯の緊急支援活動は、地域の関係団体と連携した課題解決を目指します。

また、頻発する国内災害、特に、近年は気候変動による水害の被害は深刻です。迅速な緊急人道支援活動と共に、宗教施設を地域資源とした防災減災活動をさらに推進します。

#### 実績

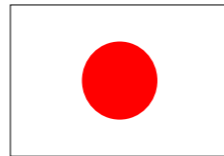
**外国ルーツの子どもの居場所づくり**  
回数:46回 参加者:延べ307人

**外国人支援フードパントリー・相談会**  
回数:14回 参加者:延べ432組

**令和4年福島県沖地震**  
(南相馬災害支援チームでの活動実績)  
活動時期:3月24日～8月1日  
入浴券配布枚数:510枚(4月～7月 シャンティ購入分以外も含む)  
タクシーチケット配布枚数:15枚  
ボランティアマッチング件数:147件(4月11日～5月11日)  
訪問件数:182件(3月24日～7月31日)

**令和4年8月豪雨**  
子どもの居場所サポート回数:7回  
参加者:延べ155人  
蔵書支援:3カ所、394冊

新潟・村上市 ●福島・南相馬市  
●東京・豊島区



#### 国内事業

##### 外国ルーツの子どもの居場所づくり

- 外国ルーツの子どもの居場所づくり活動を、NPO法人豊島子どもWAKUWAKUネットワークと協働で、2020年5月に開始しました。長引くコロナ禍において、オンラインでの活動を継続しています。
- 2022年は46回の「居場所」を開催し、のべ307人の子どもが参加しました。大学院生の運営スタッフ、ネパール人と中国人の大学生通訳スタッフが毎回の活動を企画・運営しています。
- 外国ルーツの年長者に進路を相談できる「進路相談会」を5月27日、8月13日に開始しました。
- 長引くコロナ禍において困窮する外国人の存在が浮き彫りになり、子どもの家庭も含めた外国人世帯への緊急支援を実施しました。計14回の外国人向けフードパントリー・相談会を実施し、来場したのべ432組の外国人に、食料配布と専門家相談を実施しました。継続的な支援が必要な場合は、地域の法律事務所、社会福祉協議会、各種支援団体と連携した個別支援を実施しました。

#### 国内緊急人道支援活動

##### 1. 災害支援

3月16日に発生した最大震度6強の「令和4年福島県沖地震」により、甚大な被害を受けた福島県南相馬市に職員を派遣しました。現地団体などと連携し、民間ボランティアチームの立ち上げからボランティアコーディネート、その後、サロン活動の立ち上げサポートを行いました。

「令和4年8月豪雨」により、大きな被害を受けた新潟県村上市に職員を派遣しました。現地団体が災害をきっかけに始めた子どもたちの居場所づくりに対し、外遊専門家と協働でサポートを実施。加えて、浸水被害に遭った子ども施設に対し、備品整備の支援を行いました。

##### 2. 防災減災事業

「宗教施設を活用した防災減災推進事業」を開始しました。①防災減災を考える宗教施設の交流と研修、②防災減災モデル宗教施設の能力強化、③横断的な宗教施設の防災減災ネットワーク形成の3本柱の活動を中心に、本分野の専門家のサポートをいただきながら啓蒙を高めました。

#### 課長メッセージ

地球市民事業課  
課長  
市川 育



コロナ禍の影響により在留外国人の多くが失業や収入の激減に直面し、その結果、在留資格を失うことにもつながります。また、けがや病気、住まい、子どもの教育など日本での滞在期間が長くなるほど、生活面の問題に直面しています。私たちは、地域のNPO、社会福祉協議会などと連携し、在留外国人に寄り添った支援活動に取り組んでいます。

また、近年、日本各地で大水害が発生し、復興には数カ月を要しますが、支援が不十分で復興が進まない地域もあります。特に、過疎地の災害はさらに過疎化が進むことが懸念されています。一方、東日本大震災以降、宗教施設が地域の防災減災拠点として見直されています。現在、宗教施設と災害協定及び協力を結んでいる自治体数は309と2,065の宗教施設にのぼります。私たちは宗教・宗派を超えたネットワークにより、各地の宗教施設の協力を得て、防災減災を進める活動を推進しています。

# 緊急人道支援

災害や紛争発生直後の緊急期において、生活するために必要な生活物資を配布します。また、子どもたちの学びを守るため、教育支援活動にも取り組んでいます。長期の避難生活においても基本的な人権を守るため、国際基準に則った活動を行っています。

## 海外における緊急人道支援活動

### ミャンマー

#### タイ・ミャンマー国境付近における緊急人道支援 [2021年11月～2022年3月]

タイ側・ミャンマー側それぞれの国境付近において、避難民やホストコミュニティを対象として、米・豆などの緊急食料キットや、石けんなどの衛生用品を約6,000人に配布しました。

#### 僧院学校の児童・生徒等を対象とした教育物資配布 [2022年10月～2022年12月]

主に地域の寄付で成り立っている僧院学校46校を対象に児童・生徒向けの学習教材や教員向けの指導補助教材を配布しました。今後も、新型コロナウイルス感染拡大やクーデターの影響により学びの機会が失われた子どもたちの教育環境の改善に取り組んでいきます。



ミャンマー国境付近の村で物資を受け取った子どもたち



僧院学校での物資配布の様子

### ウクライナ

#### ウクライナ・ポーランドの避難民に対する物資配布及び教育支援 [2022年8月～]

ウクライナとポーランドの6都市の避難民に対して、パスタ・小麦粉・缶詰食品などの食料や、粉ミルク・日用品などの物資を配布しています。また、避難民の子どもたちにオンライン教育を受ける機会を提供するため、避難施設にタブレットを設置するなどの教育支援を実施しています。

#### 国内避難民に対する生活再建支援及び物資配布 [2022年10月～]

ウクライナ中部ポルタヴァ州の国内避難民を対象に、長引く避難生活の中で、就職をはじめとする生活再建に必要な知識・技能を提供するために現地の大学を会場として各講座を開催しています。また、東部の戦闘地域を始めとする各地から大学の寮や近隣に避難している国内避難民に対して、食料や生活必需品の配布をしています。



ポルタヴァ州において国内避難民向けに開催される「裁縫講座」のために用意されたマシン



ポーランドのシェルターで、現地提携団体とともに避難民の方々に配布物資の活用状況等を伺うシャンティ職員

### アフガニスタン

#### 国内避難民への緊急越冬支援 [2022年2月～2022年6月]

冬季の厳しい環境の中で脆弱な立場に置かれている国内避難民へ小麦粉・豆・食用油などの緊急食料キットや、ブランケットやガスコンロなどの生活必需品キットを配布しました。4カ月の事業期間のうちに、700世帯(約4,900人)に物資を配布することができました。

#### 生活困窮者への物資配布及び女性の保護支援 [2021年8月～2022年8月]

2021年8月から1年間、アフガニスタン東部のクナル県において、生活困窮者に対する緊急食料配布および新型コロナウイルス感染予防に関する啓発活動を行いました。また、2021年8月のタリバン政変以降、より一層脆弱な立場に置かれている女性を対象として、戸別訪問による啓発活動や物資配布を行いました。引き続き、タリバン暫定政権のもとで女性の就労や女子教育に大変厳しい制約がありますが、現地職員の安全対策を講じながら、慎重に情報収集・調整を行い、実施可能な支援を継続していきます。

#### 東部地震の被災者に対する食料などの配布 [2022年8月～2022年12月]

6月にアフガニスタン東部で発生したマグニチュード5.9の大規模な地震の被害を受けたホースト県の被災者を対象として、300世帯(約2,100人)分の食料やビニールシート・バケツ・調理用品などの生活必需品を配布しました。



物資配布会場の様子



戸別訪問による女性の保護啓発事業の様子

### パキスタン

#### 大規模洪水の被災者に対する食料・生活必需品の配布 [2022年10月～]

パキスタン全土で6月以降発生している大規模な洪水の被害を受けた被災者を対象にして、ハイバル・パフトゥンハー州において、600世帯(約4,200人)に小麦粉・豆・米など3カ月分の食料、ビニールシート・ポリタンク・石けん、台所用用品などの生活必需品を配布しています。



神益者選定のための調査時の子どもたち



## 絵本を届ける運動 Campaign to Deliver Picture Books

日本の絵本に、現地の言葉に翻訳したシールを貼り、シャンティが支援するアジアの子どもたちに届けています。翻訳シールを貼る翻訳絵本づくりは、個人でも団体でも気軽にご参加いただけます。1999年に開始してから2022年で23年目を迎えました。

### 国際協力活動を知るきっかけとして

#### 18,520冊の翻訳絵本を子どもたちのもとへ

「絵本を届ける運動」を通して集めた翻訳絵本は、シャンティが支援する活動地の子どもたちのもとに届けられます。1999年に開始したこの活動も、毎年多くの方々にご参加いただき、23年目を迎えました。これまでにこの運動を通して届けた翻訳絵本は38万冊以上にのびます。

2022年度は、カンボジア、ラオス、アフガニスタン、ミャンマー、タイ国境ミャンマー(ビルマ)難民キャンプへ、クメール語、ラオス語、ダリー語、ビルマ語、カレン語に翻訳した絵本、合わせて35タイトル・18,520冊を届けることができました。

#### 活動地に送る絵本のテーマ

届ける絵本は、現地でシャンティが取り組んでいる活動内容や子どもたちの年齢、文化的背景などを考慮し、絵本に詳しい図書館員、出版社の皆さまよりアドバイスをいただきながら選書しています。常に子どもたちからの人気が高い動物や乗り物の絵本に加え、2022年度は日々の暮らしにまつわる絵本や、きもちを考える絵本を届けました。

#### 自宅でできる国際協力活動

2022年度はのべ16,603人の個人、504組の企業・団体の皆さまに参加いただきました。コロナ禍でも自宅でできる国際協力プログラムとして、多くの申し込みをいただきました。参加いただいた方からは「自宅で子どもと一緒に取り組むことができ大変有意義でした」「社会貢献活動に興味をわくきっかけとなりました」といった感想が届いています。

#### 実績

参加数 **18,520**冊  
1,782件  
タイトル数 **35**タイトル  
出版社数 **15**社

2022年の  
ラインナップは  
こちら▶



絵本を手にした子どもたち  
(上)カンボジア (下)難民キャンプ

## CRAFT AID クラフトエイド [フェアトレード事業]

アジアの女性たちが時間と手間をかけて丁寧に手づくりした物を販売するシャンティのフェアトレード事業です。現地のパートナー団体と共に、刺繍や織りなどの代々伝わる伝統文化や技術を取り入れた商品を製作し、ご紹介しています。

### つくり手たちの想いをのせて

#### 世界情勢の変化の中で

2022年は、糸や生地などの材料費や海外輸送費の高騰、急激な為替変動の影響を受け、クラフトエイドも大規模な商品価格の見直しを行いました。また、つくり手たちが暮らすアジア各国も物価の上昇が進み、タイの山岳地域に暮らす少数民族の中には、農業に専念するために、ものづくりをやめてしまう人たちもいました。一方で、カンボジアでは新しい女性のグループがクラフトエイドに参加したり、アフガニスタンやミャンマーからの商品が届くようになったりと、少しずつですが日常が回復しつつあります。引き続き、つくり手が安心してものづくりに専念できるように、継続した注文を行っていきます。

#### 顔が見える関係を目指して

2022年はミャンマーのパートナー団体と共に2回のポップアップイベントを開催し、多くのお客さまにお越しいただきました。また、関東近郊のマルシェや全国のイベントに25回参加し、つくり手のストーリーを直接伝えながら販売を行いました。通販では952件の注文をいただき、クラフトエイドの商品を取り扱う店舗から88件の注文をいただきました。クラフトエイドでは、商品カタログやSNSでの発信、イベント販売を通して、これからもつくり手とお客さまの顔が見える関係を目指していきます。

#### 実績

取扱 **45**店  
期間限定販売 **20**回  
ご支援数 **1,326**件

つくり手たちの  
手仕事を  
ご覧ください▶



マルシェ出店の様子



タイ/モン族の手刺繍ミニベンケース (上)と  
刺繍風景 (下)

## アジアの 図書館サポーター [継続的なご寄付による支援]

アジアの子どもたちに本を読む機会や、安心できる場所を届けるため、継続的にご支援いただくプログラムです。皆さまのご支援が子どもたちの生きる力を育みます。

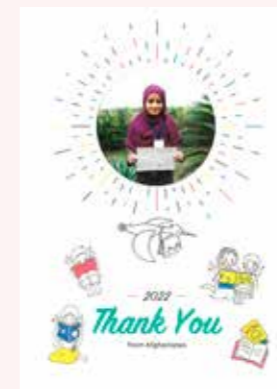
### 子どもたちの学びをとめない

2022年度は新たに171名の方がサポーターに参加され、2022年12月末時点で2,431名の方に継続的なご支援をいただいています。より多くの方にサポーターの活動を知っていただくために、サポーター募集のウェブページリニューアルやSNSなどでの発信を行いました。また、イラストレーターのaurinco(アウリンコ)さんのデザイン協力により、今年は子どもたちの描いたイラストをポストカードにして、活動地の子どもたちからの写真付きメッセージカードと共にお届けしました。アフガニスタンの子ども図書館に通う子どものカードには、突然学校が閉鎖されて通えなくなってしまったことや、手芸を覚えて気持ちが少し前向きに変わった気がする、と「わたしたちの未来をつくる図書館を建ててくれてありがとう」というお礼の言葉が書かれていました。アフガニスタンやミャンマーでは小学校にすら通えない子どもたちが多くいます。緊急下でも学ぶ場所があり、学びをサポートしてくれる大人がいることは子どもたちの未来を支えます。

#### 実績

新規サポーター **171**名

ご寄付に関する情報は  
こちら▶



メッセージカード  
カードデザイン: aurinco (アウリンコ)

#### メディア掲載 |

##### アフガニスタンやウクライナ支援を中心に

テレビ、新聞、雑誌など118媒体で掲載されました。内訳は、新聞87、雑誌11、その他ネットメディアなど20媒体です。シャンティの活動地であるアフガニスタンの情勢や2022年より緊急人道支援を開始したウクライナに関し、現地の様子や活動の状況、暮らす人々の声を取りいただくことが増えました。

掲載先(一部): 朝日新聞/読売新聞/毎日新聞/東京新聞/産経新聞/神戸新聞/中外日報/仏教タイムス/新文化/読売クォーター など

#### イベント開催 |

##### オンラインと対面イベントの実施

オンラインと対面イベントを合わせて16回開催し、1,020人に参加いただきました。ウクライナ調査の報告会イベント、アフガニスタン支援の現状報

## もので寄付する プロジェクト

読み終えた本や使わなくなったブランド品、貴金属、商品券や書き損じはがきなどをお譲りいただくと、提携企業が査定して、買取額が寄付となります。

### ものでの寄付を、より身近に

2022年は、各種行事やイベントが一部再開になり「もので寄付するプロジェクト」をご案内する機会が増えました。企業との連携により、一部書店にシャンティへの寄付になる古本の回収ボックスが設置されました。読書週間に合わせて査定額が上乗せになるキャンペーンを開催しました。シャンティのほかのプログラムにご参加いただいた皆さまへ専用封筒でご案内しています。ものでの寄付がより身近になるよう取り組んでいます。

#### 実績

本・CD・ゲームソフト **571**件  
商品券・金券、書き損じはがき、それ以外の家に眠るお宝 **494**件  
合計 **1,065**件  
総額 **4,743,405**円

#### 回収品の例

- 本・CD・ゲームソフト
  - 書籍
  - コミック
  - CD
  - DVD/Blu-ray
  - ゲームソフト、ゲーム機
- 商品券・金券
  - 全国共通商品券
  - ビール券/お米券
  - 図書券/図書カード
  - 書き損じはがき
  - 未使用の切手/はがき
- それ以外の家に眠るお宝
  - 金・プラチナ・貴金属・宝石
  - ブランド品(バッグ・食器・時計)
  - 古銭・古紙幣/金貨・貨幣
  - カメラ・レンズ
  - 楽器(ギター、管楽器) など



回収品の例



書き損じはがき

#### 実績

メディア掲載 **118**媒体  
講演 **63**回 / **5,009**人  
イベント開催 **16**回 / **1,020**人

告のイベントや、また2022年はラオス事務所設立30周年の記念イベントをオンラインで開催することができました。2021年と比べ、コロナが落ち着きを見せる中、対面でのイベント開催も徐々に増えつつあります。また、12月はオンラインと対面のハイブリッドで開催し、タイよりプラチーブ・ウンソンタム・秦先生をお招きした講演会を実施しました。イベントの様子はシャンティのYouTubeチャンネルからご覧いただけます。

#### 講演 | 企業、学校、お寺での講演が増加

63回、5,009名の方に向けて講演を行いました。学校からは13件、企業からは21件のご依頼をいただきました。2021年はコロナ禍のためほとんどがオンラインでの実施となりましたが、2022年は対面での実施も増えてきました。また、コロナで実施が出来ていなかった曹洞宗の梅花大会も開催され、徐々に日常に戻りつつあります。

## ご支援・ご協力・連携実績

2022年も、個人、団体からのご寄付に加えて、教育環境改善のための連携事業を実施しました。さまざまなご支援・ご協力を通して多くのみなさまに活動を支えていただいています。

### ご支援・ご協力 (掲載数字: 2022年1月～12月)

#### アジアの図書館サポーター (マンスリースポータープログラム)

新規申込	171人
合計	2,431人 *2022年12月末時点

#### 寄付

個人からの寄付	6,403人 / 165,778,055円
団体からの寄付	1,806団体 / 208,438,668円

#### 事務所ボランティア

絵本を届ける運動	18人
クラフトエイド	3人

#### インターンシップ

広報・リレーションズ課	12人 (内、東洋大学より4人、鶴見大学より4人)
事業サポート課	3人
地球市民事業課	1人

#### プロボノ・協力者

aurinco(アウリンコ)さん  
 沼田 智美さん  
 きよはら えみこさん  
 保田 卓也さん  
 川畑 嘉文さん  
 安井 浩美さん  
 江藤 孝治さん  
 和田元さん  
 高橋明日香さん  
 伊藤 弘泰さん  
 木村沙弥香さん  
 シュルツ八坂由美さん  
 高田亮さん  
 藤原千尋さん  
 三上悠里さん  
 松岡純平さん

### 事業連携

#### 外務省「日本NGO連携無償資金協力」

##### ネパール

・被災地、先住民族地域における教育の質の改善事業

##### アフガニスタン

・子どものための図書館普及にむけた基盤整備事業

##### ミャンマー

・ヤンゴン地域及びビー県内の教員養成学校及び現職教員研修施設への学校図書館に関する基盤整備化事業

##### カンボジア

・バットンバン州における小学校建設を通じた学習環境改善事業

#### 国際協力機構(JICA)「草の根技術協力事業」

##### ラオス

・ラオス北部地域の教員養成校指導教官の能力強化を通じた、複式学級運営改善事業(草の根パートナー型)

##### カンボジア

・幼児教育カリキュラムに基づく「遊びや環境を通じた学び」実践のための基盤構築事業(草の根パートナー型)

#### ジャパン・プラットフォーム(JPF)

##### アフガニスタン

・ナンガハル県・クナール県における食糧・NFI配布による越冬支援事業  
 ・クナール県における生活困窮者への物資配布・衛生啓発及び女性の保護支援事業

##### パキスタン

・ハイバル・パフトゥンハー州における食糧・生活必需品配布事業

##### ミャンマー国境

・カレン州における国内避難民等を対象とした緊急食糧配布支援

##### ミャンマー

・僧院学校の児童・生徒及び教員を対象とした学習及び指導補助教材配布支援

##### ウクライナ

・ウクライナ人道危機の影響を受けた被災者を対象とした食糧・生活必需品の配布および教育支援事業  
 ・ウクライナ国内の避難民に対する生活再建支援および食糧・生活必需品配布事業

#### 国連世界食糧計画(WFP)

##### ネパール

・ヌワコット郡における学校給食計画

##### アフガニスタン

・ナンガハル県における脆弱層に対する食糧配布事業

#### 国連児童基金(UNICEF)

##### アフガニスタン

・クナール県における子どもの教育へのアクセス向上事業

#### 後援

「絵本を届ける運動」「アジアの図書館サポーター」

- ・文部科学省
- ・公益社団法人 日本図書館協会
- ・公益社団法人 読書推進運動協議会

# シャンティとは

シャンティは40年以上、アジアの国々で教育文化支援活動を続けてきました。「教育には人生を変える力がある」と信じ、地域の文化や対話を大切にしながら、図書館活動や学校建設、人材育成などを行っています。

### シャンティの理念

## 共に生き、共に学ぶ

世界には、紛争や貧困、自然災害などで教育を受けられない人たちがたくさんいます。私たちは、厳しい環境の中でも安心して学べる機会をつくる活動を行っています。

#### 使命

人間の尊厳と多様性を尊び「共に生き、共に学ぶ」ことのできる平和(シャンティ)な社会を目指します。

#### 目指す姿

人々の考える力、創造する力を支え、共に社会や生活の問題を解決していくNGOとなります。

### 子どもたちが安心して学べる環境をつくるために

私たちが目指すのは本に触れる文化づくりと、教育の質の向上です。そのためには「1.学ぶための本や教材」、「2.学びを届ける人」、「3.安心して学べる場所」、そして「4.学びと出会うための活動」が欠かせません。



### 2030年までの達成を目指す

#### 「持続可能な開発目標(SDGs)」

世界の国々が話し合い、2030年までに先進国、途上国を問わず、世界が取り組むべき17の目標として、2015年9月に国連総会で「持続可能な開発目標(SDGs)」が採択されました。私たちは「目標4. 質の高い教育をみんなに」の達成に向け、教育課題の解決のみならず、SDGsが掲げるさまざまな目標達成に向けた取り組みを行っています。

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

シャンティが主に取り組む「持続可能な開発目標(SDGs)」の目標



## 組織概要

法人名：公益社団法人シャンティ国際ボランティア会

設立：1981年12月10日

社団法人登記日：1999年8月19日

公益社団法人移行登記日：2011年1月4日

### 顧問

<b>足立 房夫</b>	一般社団法人協力隊を育てる会 顧問
<b>阿部 豊淳</b>	宮城県・光寿院 住職
<b>小野田 宏全</b>	特定非営利活動法人静岡県ボランティア協会 理事長
<b>川原 英照</b>	熊本県・蓮華院誕生寺 貫主 特定非営利活動法人れんげ国際ボランティア会 会長
<b>白石 孝</b>	荒川区職員労働組合 顧問 特定非営利活動法人日本ラオス子どもの未来 理事長
<b>笹岡 賢司</b>	静岡県・龍谷寺 住職

### 参与

<b>服部 秀世</b>	曹洞宗 宗務総長
<b>小林 昌道</b>	大本山永平寺 監院
<b>渡辺 啓司</b>	大本山總持寺 監院

### 理事・監事

会長	<b>若林 恭英</b>	安楽友の会 代表、長野県・安楽寺 住職
副会長	<b>茅野 俊幸</b>	公益財団法人庭野平和財団 理事、長野県・瑞松寺 住職
副会長	<b>秦 辰也</b>	近畿大学国際学部 教授
専務理事	<b>岡本 和幸</b>	上総自然学校 代表、千葉県・真光寺 住職
常務理事	<b>有馬 嗣朗</b>	あんでねっと事務局、山口県・原江寺 住職
常務理事	<b>神津 佳予子</b>	株式会社KOZUstyle 代表取締役
常務理事	<b>松永 寛道</b>	静岡県・宗徳院 住職
理事	<b>浅野 幸子</b>	早稲田大学地域社会と危機管理研究所 招聘研究員
理事	<b>伊藤 弘泰</b>	TD SYNTEX株式会社 常務執行役員部門長 筑波大学/岡山大学 非常勤講師
理事	<b>佐藤 真美</b>	一般社団法人Earth Company 日本事務局長
理事	<b>関根 隆紀</b>	埼玉県・光秀寺 住職
理事	<b>東海 泰典</b>	シャンティ東北 代表、宮城県・松源寺 住職
理事	<b>直井 里予</b>	国際ファッション専門職大学 専任講師 京都大学東南アジア地域研究研究所 連携講師
理事	<b>八木澤 克昌</b>	シーカー・アジア財団 アドバイザー
理事	<b>山本 英里</b>	シャンティ国際ボランティア会 事務局長
理事	<b>横澤 敬雄</b>	長野県・東昌寺 住職
理事	<b>横山 俊顕</b>	曹洞宗総合研究センター 講師、福島県・安洞院 住職
監事	<b>中山 雅之</b>	国士館大学大学院グローバルアジア研究科 教授
監事	<b>野中 茂</b>	公認会計士（野中公認会計士事務所）

### 専門アドバイザー

<b>天野 教之</b>	天野医院 院長
<b>大菅 俊幸</b>	曹洞宗総合研究センター 講師
<b>鎌倉 幸子</b>	かまくらさちこ株式会社 代表取締役
<b>高田 博嗣</b>	NHKグローバルメディアサービス ニュース制作部 統括部長
<b>手束 耕治</b>	カンボジア宗教省仏教研究所 顧問
<b>藤谷 健</b>	朝日新聞社東京本社デジタル機動報道部長 兼 ジャーナリスト学校デジタル推進担当部長
<b>三宅 隆史</b>	立教大学 特任教授

### 国内における主な受賞歴

- 正力松太郎賞(1984年)
- ソロブチミスト日本財団賞(1985年)
- 外務大臣賞(1988年)
- 毎日国際交流賞(1994年)
- 東京都豊島区感謝状(1995年)
- 防災担当大臣賞(2004年)
- 兵庫県知事感謝状(2005年)
- 第七回井植記念「アジア太平洋文化賞」(2008年)
- 宮城県社会福祉協議会感謝状(2011年)
- ESD岡山アワードグローバル賞(2015年)
- スポーツ庁長官感謝状(2019年)
- 第14回かめのり賞 特別賞(2020年)
- 第28回読売国際協力賞(2021年)
- 第25回地球倫理推進賞(2021年)
- 文部科学大臣賞(2021年)

### 参加ネットワーク一覧

#### 国内

SDGs市民社会ネットワーク/ NGO安全管理イニシアティブ(JaNISS)[世話人]/  
NGO外務省定期協議会/ NGO-JICA協議会[コーディネーター]/  
NGOと企業の連携推進ネットワーク/ NGO-労働組合国際協働フォーラム/  
NGO非戦ネット[呼びかけ人]/ 市民社会スペースNGOアクションネットワーク(NANCIS)/  
開発教育協会(DEAR)[理事]/ 紙芝居文化推進協議会/カンボジア市民フォーラム[世話人]/  
教育協力NGOネットワーク(JNNE)[事務局長]/ 国際協力NGOセンター(JANIC)/  
シーズ・市民活動を支える制度をつくる会/ ジャパン・プラットフォーム(JPF)/  
多文化としまネットワーク/ 多文化共生教育ネットワーク東京(Team-Net)/  
地雷廃絶日本キャンペーン(JCBL)/ 震災がつなぐ全国ネットワーク(震つな)/  
東京災害ボランティアネットワーク(東災ボ)[副代表]/  
東京都災害ボランティアセンター・アクションプラン推進会議[幹事団体]/  
日本アフガニスタンNGOネットワーク(JANN)/ 日本NPOセンター/ 日本図書館協会/  
日本ファンディング協会/ 日本UNHCR-NGOs評議会(J-FUN)/ 庭野平和財団[理事]/  
防災・減災日本CSOネットワーク(JCC-DRR)/ 東日本大震災支援全国ネットワーク(JCN)/  
仏教NGOネットワーク(BNN)[副理事長、事務局長]/ 曹洞宗SDGs推進委員会/  
世界宗教者平和会議(WCRP)/ アフガニスタン退避者受け入れコンソーシアム/  
JANIC・アフガニスタンワーキンググループ

#### 海外

##### カンボジア

Cooperation Committee for Cambodia(CCC)/  
NGO Education Partnership(NEP)/カンボジア市民フォーラム/  
Japanese NGO Worker's Network in Cambodia(JNNC)

##### ラオス

International NGO Network / Japanese NGO Meeting(JANM)

##### ミャンマー（ビルマ）難民キャンプ

Committee for Co-ordination of Services to Displaced Persons in Thailand  
(CCSDPT: 難民支援事業調整委員会)

##### アフガニスタン

Agency Coordinating Body For Afghan Relief(ACBAR)

##### ミャンマー

Japan NGOs Network – Myanmar(JNN-Myanmar)/ INGO Forum

##### ネパール

Association of International NGOs in Nepal(AIN)

##### 全体

Asia South Pacific Association for Basic and Adult Education(ASPBAE)[理事]/  
The Asia Disaster Reduction & Response Network(ADRNRN) / Global Book Alliance

## 組織図

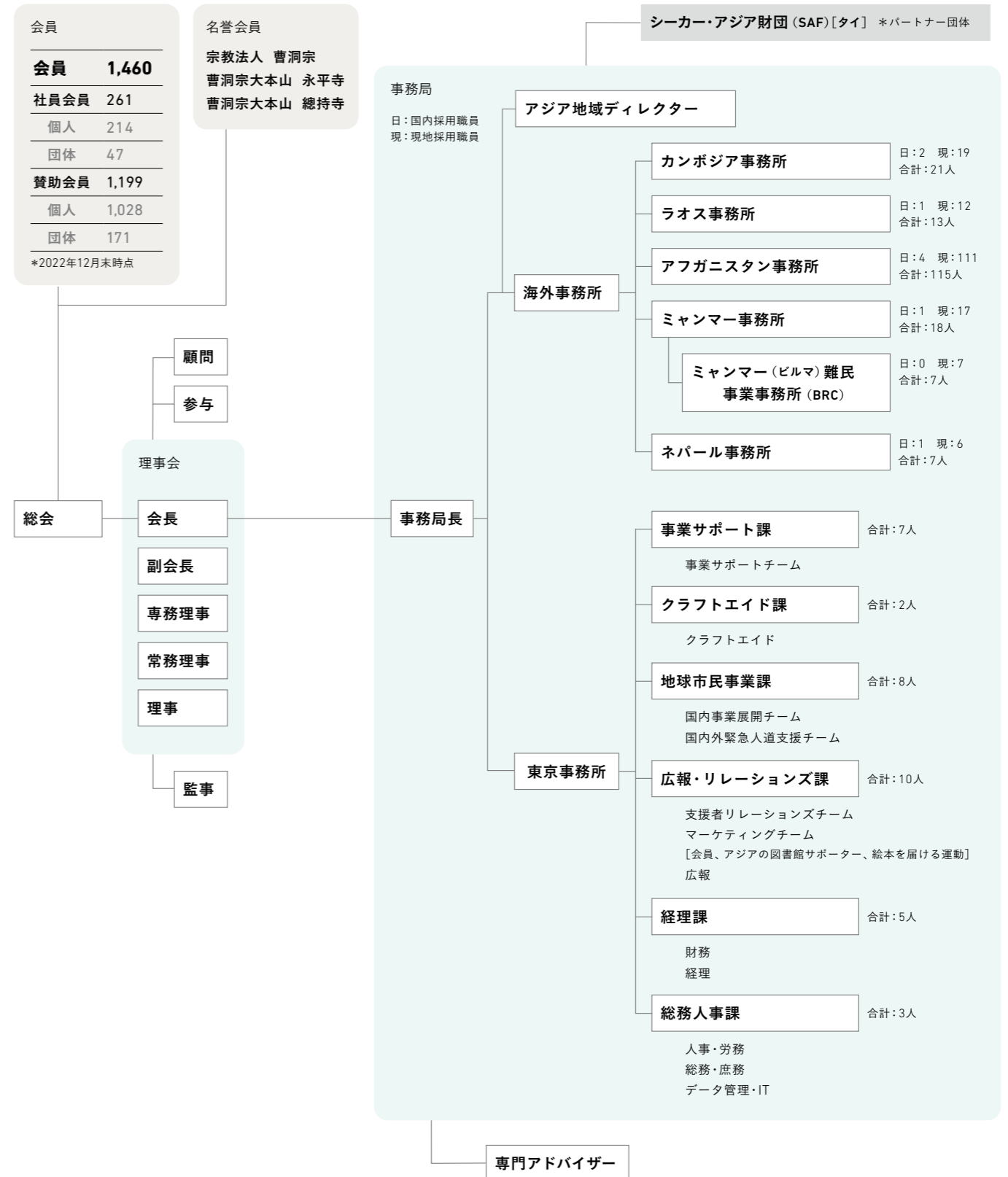
事務局員 217人

(SAF、インターン含まず)

国内採用職員 45人

現地採用職員 172人

\*2023年4月1日時点



貸借対照表 2022年12月31日現在

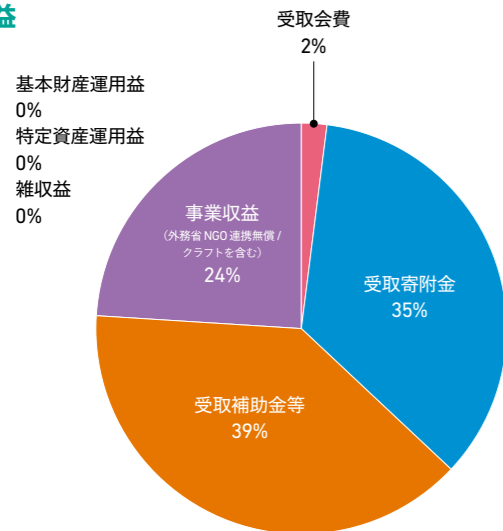
資産の部 (単位:円)	
1. 流動資産 (現預金等)	123,585,040
2. 固定資産	
(1) 基本財産	50,000,000
(2) 特定資産 (特定預金等)	703,453,373
(3) その他固定資産 (固定資産物品等)	7,509,809
固定資産合計	760,963,182
資産合計	884,548,222

負債の部	
1. 流動負債 (預り金等)	121,925,487
2. 固定負債 (退給引当金等)	51,854,037
負債合計	173,779,524

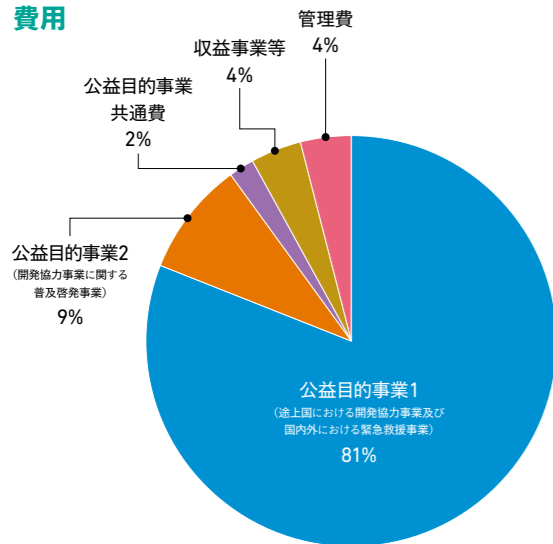
正味財産の部	
1. 指定正味財産	627,670,936
2. 一般正味財産	83,097,762
正味財産合計	710,768,698

負債及び正味財産合計	884,549,013
------------	-------------

収益



費用



正味財産増減計算書 2022年1月1日から2022年12月31日まで

一般正味財産の部 (単位:円)	
経常増減の部	
1. 経常収益	
基本財産運用益	97,500
特定資産運用益	98,724
受取会費	21,909,000
受取寄附金	358,061,645
受取補助金等	395,914,934
事業収益 (外務省 NGO 連携無償 / クラフトを含む)	246,654,758
雑収益	960,964
経常収益計	1,023,697,525
2. 経常費用	
事業費	
公益目的事業1 (途上国における開発協力事業及び国内外における緊急救援事業)	
タイ事業費	6,615,154
カンボジア事業費	115,549,118
ラオス事業費	32,907,187
アフガニスタン事業費	279,229,225
ミャンマー事業費	82,441,522
ネパール事業費	119,107,602
緊急救援事業費	127,036,013
東日本大震災復興支援事業費	2,653,589
海外事業支援費	44,262,835
公益目的事業1 合計	809,802,245
公益目的事業2 (開発協力事業に関する普及啓発事業)	
絵本を届ける運動事業費	41,491,911
広報事業費	41,334,697
国内事業費	8,637,380
公益目的事業2 合計	91,463,988
公益目的事業共通事業費	23,662,118
公益目的事業合計	924,928,351
収益事業等	
クラフトエイド事業費	30,338,099
本で寄付するプロジェクト事業費	7,596,723
収益事業等合計	37,934,822
管理費合計	35,449,283
経常費用計	998,007,615
評価損益等調整前当期経常増減額	25,689,910
評価損益等計	0
当期経常増減額	25,689,910
経常外増減の部	
経常外収益計	9,697,187
経常外費用計	10,166,959
当期経常外増減額	△ 469,772
税引前当期一般正味財産増減額	25,220,138
法人税、住民税及び事業税	70,000
当期一般正味財産増減額	25,150,138
一般正味財産期首残高	57,947,624
一般正味財産期末残高	83,097,762

評価損益等調整前当期経常増減額	25,689,910
評価損益等計	0
当期経常増減額	25,689,910

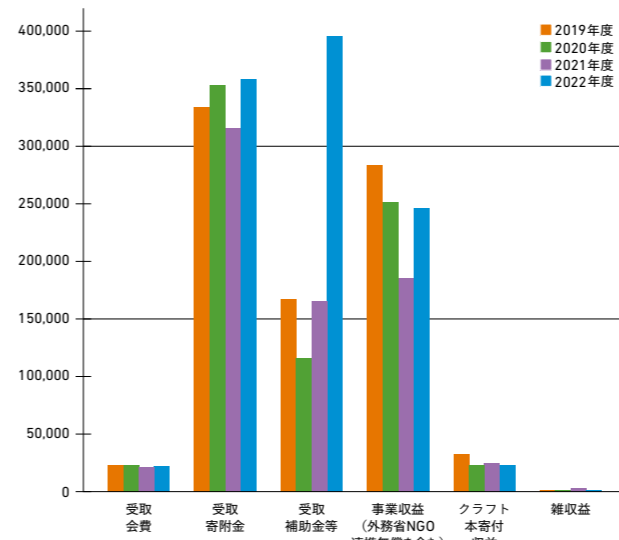
経常外増減の部	
経常外収益計	9,697,187
経常外費用計	10,166,959
当期経常外増減額	△ 469,772
税引前当期一般正味財産増減額	25,220,138
法人税、住民税及び事業税	70,000
当期一般正味財産増減額	25,150,138
一般正味財産期首残高	57,947,624
一般正味財産期末残高	83,097,762

指定正味財産増減の部 (単位:円)	
受取補助金等	323,141,240
合併受入額	150,214,077
N 連事業収益	160,980,357
受取寄附金	142,262,358
基本財産運用益	97,500
特定資産運用益	98,724
一般正味財産への振替額	△ 607,124,439
補助金返還金	△ 8,881,762
当期指定正味財産増減額	160,788,055
指定正味財産期首残高	466,882,881
指定正味財産期末残高	627,670,936

正味財産期末残高	710,768,698
----------	-------------

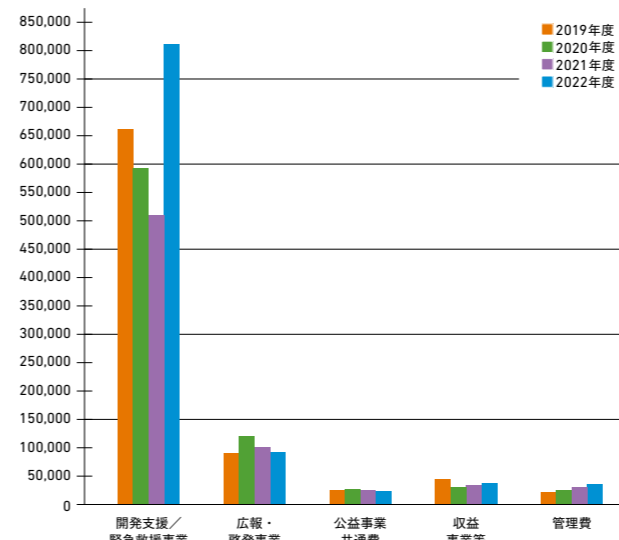
年度別収益推移表 (一般正味財産)

収益	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
受取会費	22,921	22,903	21,457	21,909
受取寄附金	333,412	351,997	314,606	358,062
受取補助金等	167,001	115,607	165,503	395,915
事業収益 (外務省 NGO 連携無償を含む)	282,868	250,762	184,684	246,655
クラフト本寄付収益	32,524	22,548	24,372	23,217
雑収益	927	1,324	3,363	1,157
合計	839,653	765,141	713,985	1,046,914



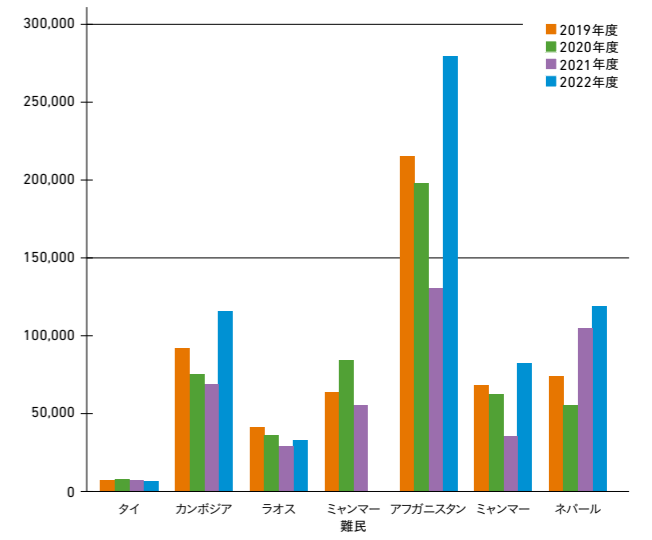
年度別費用推移表

費用	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
開発支援 / 緊急救援事業	660,834	590,569	509,453	809,802
広報・啓発事業	90,997	119,904	100,514	91,464
公益事業共通費	26,177	26,754	26,354	23,662
収益事業等	45,471	31,364	35,085	37,935
管理費	21,545	25,894	31,600	35,449



年度別開発支援事業費推移表

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
タイ	7,630	7,719	7,421	6,615
カンボジア	92,077	75,063	68,546	115,549
ラオス	41,153	36,441	29,235	32,907
ミャンマー難民	63,500	83,919	55,404	0
アフガニスタン	215,224	197,646	130,529	279,229
ミャンマー	68,054	62,377	35,306	82,442
ネパール事業費	73,794	55,646	104,993	119,108



\*ミャンマー難民キャンプ支援事業は2022年度よりミャンマー事業内で行うこととなった

独立監査法人の監査報告書抜粋

監査意見

私は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産、損益(正味財産増減)の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

2023年2月16日

田中義幸公認会計士事務所

東京都新宿区

公認会計士

田中義幸

公益社団法人シャント国際ボランティア会は、当会監事による監査および田中義幸公認会計士事務所による財務諸表の外部監査を受けております。



きこりと妻と鶏

表紙の刺繍絵本：『きこりと妻と鶏』1990年

貧しいきこり夫婦の家に王様が訪ねてきます。妻は1羽しかいない大切な鶏で精いっぱいのもてなしをしますが夫はそのことで妻を怒ります。王様に泣いている理由を尋ねられた妻は、もっと豪華なご馳走を出すべきだったと夫にしかられた、と機転をきかせて答えます。上記写真は、感心した王様に「金銀のほうびを与えられ、二人は幸せに暮らしました」という最後のページです。きれいな刺繍からモンの人々の生活の様子が伝わってきます。アルファベットにしたモン語の文章も子どもたちが刺繍しました。



本文写真中の絵本 『どろんこハリー』ぶん：ジーン・ジョン、え：マーガレット・プロイ・グレサム、やく：わたなべ しげお、出版社：福音館書店 | 『おおきなかぶ』再話：A・トルストイ、訳：内田莉沙子、画：佐藤忠良、出版社：福音館書店 | 『はらべこあおむし』作：エリック=カール、訳：もりひさし、出版社：偕成社 | 『かおかおどんなかお』作・絵：柳原良平、出版社：こくま社 | 『ちいさなちいさなめにみえないびせいぶつのせかい』文：ニコラ・デイビス、絵：エミリー・サットン、訳：越智典子、監修：出川洋介、出版社：ゴブリン書房 | 『ぼくはあるいたまっすくまっすく』作：マーガレット・ワイズ・ブラウン、文：坪井郁美 絵：林 明子、出版社：ペンギン社 | 『ふゆとみずのまほう こおり』写真・文：片平 孝、出版社：ポプラ社